

日展ニュース

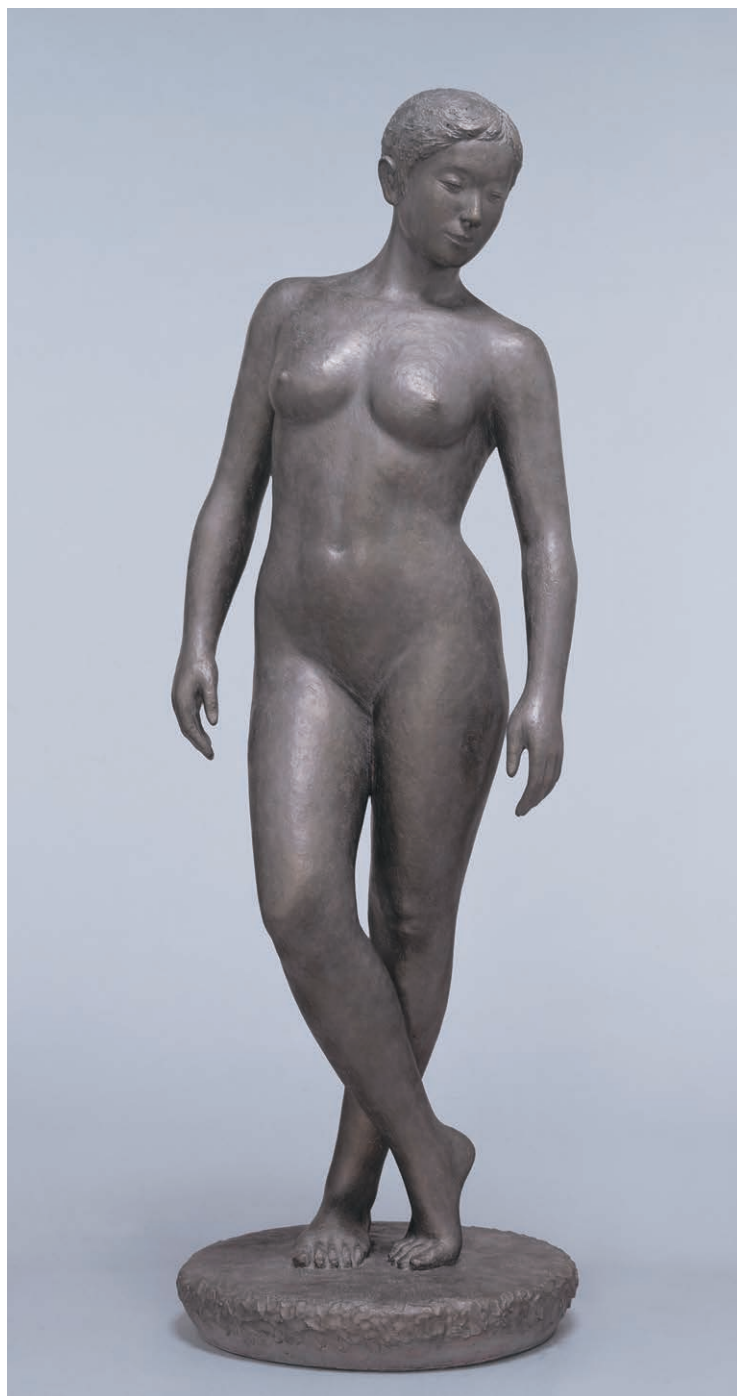
No. 187

<https://www.nitten.or.jp/>

令和6年6月30日発行

編集兼発行人 神戸峰男

第88回 定時総会



流れに立つ

雨宮敬子



日展理事長に就任して

宮 田 亮 平



この度理事会で、理事長の再任を仰せつかりました。多くの課題がある中で、引き続きの大役のご指名に、改めてその責任の重さを痛感いたしております。事務局長、副理事長の先生方も同じく再任となり、大変心強く思っております。この揺るぎない布陣で、日展運営に邁進したいと存じます。自然災害も多い中、日展の真価が問われる時代でもあります。文化芸術を通して、多くの方に「ときめき」を届け、心の安寧を感じていただけたらと僥倖ながら思っております。日展の更なる発展のため力を尽くして参りますので、皆様方のご支援、ご協力を何卒お願い申し上げます。

日展副理事長・事務局長に就任して

神 戸 峰 男



日展は、日展を愛する作家のサロンで有るとともに各々が、その作品で表現を競う場でもあります。又、新たな才能の発掘と、その支援も日展の使命と考えております。世界に類を見ない総合的美術公募団体、その存在を更に強固なものにするために、真摯に、かつ公正に作品に向きあつて参りたいと思っております。引き続き、副理事長兼、事務局長を仰せつかりました。皆様の御理解と御指導を賜りたくお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

土 屋 禮 一



この度、副理事長を再度仰せつかりました。日展は、多彩な作家の集合体です。伝統からも自由でありたい、新しい何かをやらなくてはと云う強迫観念からも自由でありたい、一人一人が活かされる、そして五科有ることの長所を改めて大切にしたいと思っております。そして若き作家の信頼を失わない組織であるよう願っています。これからも皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

佐 藤 哲



八年にわたる奥田小由女先生の日展大改革を引き継いだ宮田理事長が再任されました。日展はさらに良い方向に変わろうとしています。会員の皆様の声を聞くことを実行すべく洋画の副理事長を続けさせていただきますが、作品至上主義は通さねばいけないと思っています。皆様の作品に期待しています。

日展副理事長に就任して

黒 田 賢 一



この度、三期目の副理事長を仰せつかりました。宮田理事長の強いリーダーシップのもと、より広く、より多くの美術ファンに愛され親しまれる日展をめざして、微力ではありますが力を尽くしたいと思っております。五科が協調しながらも、各分野における独自性を発信することが重要です。作家一人一人が研鑽を重ね、より充実した日展となるよう共に歩んでまいりましょう。

第88回定時総会報告



日時 令和六年五月二十八日

午後二時

場所 上野精養軒 桜の間

出席 四七七名（含議決権行使書）

宮田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

- (一) 令和五年度事業報告承認について
- (二) 令和五年度決算承認について
- (三) 令和六年度事業計画書報告について
- (四) 令和六年度収支予算書等報告について
- (五) 会員人事報告について
- (六) 選定顧問報告について
- (七) 理事・監事の改選承認について

その他の報告事項

- 1 令和六年度称号授与予定者報告について
- 2 第十回日展巡回展開催報告について他

役員・会員新人事

令和六年五月二十八日付

新顧問

日本画

山崎 隆夫

彫刻

山本 眞輔

理事

理事長 宮田 亮平

副理事長 神戸 峰男

事務局長 土屋 禮一

副理事長 佐藤 哲

副理事長 黒田 賢一

（◎は理事長 ◇は副理事長）

日本画

河村 源三 ◇土屋 禮一

福田 千恵 村居 正之

渡辺 信喜

洋画

小灘 一紀 ◇佐藤 哲

斎藤 秀夫 町田 博文

湯山 俊久

彫刻

池川 直

能島 征二

山田 朝彦

工芸美術

井隼 慶人

三田村有純

吉賀 将夫

書

◇黒田 賢一

土橋 靖子

真神 巍堂

外部

河野 元昭

松本 正之

監事

洋画

難波 滋

彫刻

桑山 賀行

書

牛窪 梧十

◇神戸 峰男

宮瀬 富之

◎宮田 亮平

春山 文典

高木 聖雨

星 弘道

新会員

令和六年三月二十二日開催の理事会において、左記二十一名が選出された。

令和六年四月一日付

新準会員

令和六年三月二十二日開催の理事会において、左記二十七名が選出された。

令和六年四月一日付

新会友

令和六年三月二十二日開催の理事会において、左記一〇六名が選出された。

令和六年四月一日付

日本画

青田 賢蔵

洋画

阿部 良広 池上わかな
河本 昭政 中島 健太
堀 研一 本田 年男

彫刻

元田 木山 野添 浩一
牧田 法子 安田 陽子

工芸美術

武田 司 福富 信

書

池田 毓仁 稲村 龍谷
大橋 洋之 川合 玄鳳
鈴木 赫鳳 長井 素軒
藤川 翠香 宮負 丁香

第一科 日本画 (八名)

石崎 誠和 鶴飼 義丈
大西 健太 城野奈英子
田中 達也 林 真
潘 星道 吉川 咲江

第二科 洋画 (二名)

飯塚 康弘 高田 啓介

第三科 彫刻 (五名)

池端 英次 岩谷 誠久
志萱 州朗 田中 宏典
永江 智尚

第四科 工芸美術 (六名)

喜多 浩介 小割 哲也
斉藤 晴之 桜田 知文
手銭 吾郎 堀 菱子

第五科 書 (六名)

足立 光嶽 北山 転石
奈良 衡齋 中室 舟水
萩野 展山 牧野 聖雲

第一科 日本画 (七名)

井上 経倫 池田 睦月
石井 清子 岡本 徳子
川島めぐみ 福田 季生
松田 和彦

第二科 洋画 (三十一名)

阿部 浩子 穴畑三千昭
井堰 桂子 石本 敬子
岩田 悟 岩本 久子
緒方 豊 大橋 一男
加藤 久子 片岡 恵子
片岡 春江 木口操志朗
古賀 克徳 佐藤 淳子
佐藤 利宗 下光 康洋
杉本吉二郎 高崎 楫子
高橋 皐 寺岡 克三
中川 道子 箱田 栄
濱本 和信 東 千世
平野 克己 藤原 修身
松井 茂樹 松山 芳子
御法川 滋 森田 徳美
山口 繁雄

第三科 彫刻 (一名)

加藤 真浩

第四科 工芸美術 (二十五名)

市川富美子 上野伊都美

小口 隆史 小山 徹郎
桂川 幸助 河合 孝
栗本 美和 兒玉千賀子
佐々木一則 坂上 和雄
品川未知子 高柳 千秋
竹重 秀治 谷口 直之
寺田 朝子 長江 義孝
野尻 孝 平松 弘子
細田あずみ 松永 明
宮島 覚 山田 俊子
山本 恭子 吉田 武郎
鷺尾三江子

第五科 書 (四十二名)

青木 理子 天野 白汀
伊能 柳華 飯田 善一
池田 一華 池田 幸子
石黒 直子 石渕 江美
小田 大拙 大愛 魚苑
大嶋由美子 加藤 紫雲
柏木 紫香 川内 伯豊
小林 幸子 小林 融之
小松 紫峯 駒崎 陽子
塩野 蒼雲 篠原 挙秋
田中由美子 田原 茂子
谷口 翔春 辻 紅雲
堤 裕子 坪内 翠楓
寺谷 和子 天満 篤子
得丸 鵬仙 中村 泉抄
二宮 桂秀 西野 鷺山
西本 聖雲 羽根田 修
林原 松舟 兵頭 白慧
古谷 好啓 三浦 順子
水本 高堂 宮城佳寿子
山口 大夢 吉津 ゆり

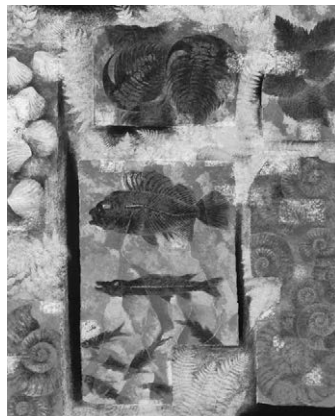


《Silence》 阿部良広

学生時代から憧れていた日展。初出品以来半世紀を経て会員に推挙され、感無量です。これもひとえに先生方、先輩方のご指導のお陰と感謝しております。残された時間を大切に今後も制作に励みたいと思っております。

日本画 青田賢蔵

作品図版
第10回日展出品作
2023（令和5年）



《太古の断片》 青田賢蔵

ご挨拶申し上げます

新会員より

三陸の小さな漁村に生まれ育った私は、絵が描きたくて京都にやって来ました。そして40年余りの年月が流れましたが、今こうして日展で作品を発表できることを幸せに思っています。今後もさらに精進していくつもりです。

洋画 阿部良広



《穏やかな時間》 池上わかな

この度は日展会員にご承認いただき、感謝いたします。この節目を更なる原動力とし、自己の表現を高められるよう、作品と真摯に向き合い、日々精進してまいりたいと思います。

洋画 池上わかな

この度、あこがれでもあった日展会員にご推挙いただき、感謝申し上げます。この重責をまっとうすべく緊張感をもって、絵と関わっていく覚悟です。

洋画 堀 研一



《小休止（HR. 1/2）》 堀 研一



《女》 河本昭政

私は約40年、高校の美術の教員をしながら制作を続けてきました。いま改めて「継続は力なり」という言葉をかみしめています。これからも、自分の絵の道をじっくりと歩んでいきたいと思います。

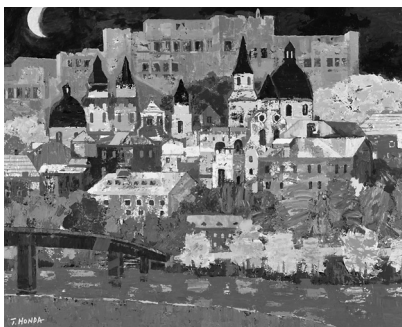
洋画 河本昭政

日本の絵画史において常に存在感を放ってきた日展の歴史、その一部になれたことを誇りに感じます。次の世代にバトンを渡せるよう、一層志を高く取り組んでいきたいです。

洋画 中島健太



《匿名の地平線— ver. blue 1—》
中島健太



《黄昏のザルツブルグ》 本田年男

この度、日展の会員に推挙され身の引き締まる思いで一杯です。日展に出品するなかでモチーフは人物、静物、風景と変化しましたが一貫して風化した物、時の流れに興味があります。今後も精進してまいります。

洋画 本田年男



《my favorite night》
野添浩一

この度日展会員に推挙していただき感謝しております。木の彫刻を解りやすい表現で記憶に留めていただけるよう心がけて精進してまいります。

彫刻 元田木山

この度、会員となり、誠に光栄で、身の引き締まる思いです。

やさしいメロディー、語らう声、涼やかな風など、見えないものをイメージ豊かに表現できるよう、いっそう努力してまいります。

彫刻 野添浩一



《かがやく季節》
元田木山



《啓明》 牧田法子

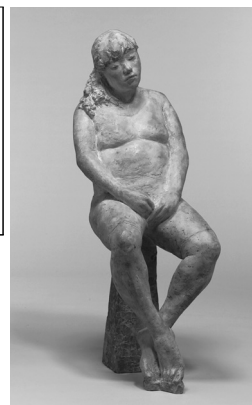
初入選から会員になるまで制作を続けられたことは感慨深いです。

自分の中の変化と向き合い、楽しみながら、その時々思うフォルムや素材そのものの可能性を探求していきたいと思います。

彫刻 安田陽子

会員に推挙していただき大変嬉しく光栄に存じます。ご指導下さった先生方や支えて下さった方々へ心より感謝申し上げます。より一層、彫刻に真摯に向き合い、研鑽に努めたいと思います。

彫刻 牧田法子



《はざま》 安田陽子

日展に出品し始め32年が経ちました。漆工芸による絵画表現の研鑽の場として身を置く中で、多くの先輩方と出会い、技術・思考を深めて参りました。感謝と共に一層高まる作品に対する責任を自覚し、励みたいと存じます。

工芸美術 武田 司



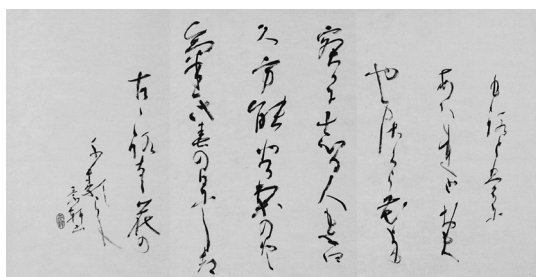
《景—彼の橋Ⅲ—》 福富 信

この度会員の承認をいただき、改めて作品制作に対する姿勢を考えさせられました。より個人的・独創的でありながら普遍性のある物作りを志したいと思います。

工芸美術 福富 信



《響—冬の森・土の中にて—》
武田 司



《花》 長井素軒

会員となりこれからは、作品を見る方々の目が変わって来るので、また、違ったプレッシャーが生じて来ると思いますが、それに打ち勝って色々と新しいことに挑戦していきたいです。

書 長井素軒



《杜甫詩句》
池田毓仁

日展の会員に加えていただけたことは、大変光栄なことであり、身に余る思いであります。今まで以上に書について考え、技術に磨きを加え、研鑽を積み上げていかなければならないと肝に銘じた次第であります。

書 池田毓仁



《以類聚》 大橋洋之

会員になりましたこと、心から感謝し、更なる高い境地を求め、一層の精進をかさねる覚悟です。遅々として歩みの鈍い菌痒い私ですが、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

書 川合玄鳳



《島崎藤村の詩》
川合玄鳳

歴史ある日展の会員にご推挙賜り、感謝とともに思いを新たにしております。偉大な先達、先輩方によって築き上げられた伝統を築く一員として、また未来に向かって自己の魂の発露を作品に傾注していく所存です。

書 大橋洋之



《劉長卿詩》
鈴木赫鳳

会員にご推挙いただき、身の引き締まる思いです。今後目ざす作品は、書芸術の多様性のなかの一つとして、見ていただく人にやすらぎを与えられるようなものを書きたいと思っています。

書 鈴木赫鳳

この度は会員に推挙していただき心より感謝申し上げます。師をはじめとする皆様のおかげです。これからも変わらず精進努力し後進を育てつつ、古くて新しい世界を求めていきたいと思ひます。

書 稲村龍谷



《身楽逸》 稲村龍谷

会員となり、責任の重さを痛感しております。日本の書文化の伝統と継承と更なる発展に微力ながらも寄与するべく今一度原点に立ち返り一層の精進を重ねる所存です。

書 宮負丁香



《張景崧詩》
宮負丁香

昨年、審査員という貴重な経験をさせていただき、作品に対する視野も広がり、今後も古筆の分析を基に線質の繊細さや呼吸を昇華していく所存です。不足と思うところばかりですが、よろしくお願い申し上げます。

書 藤川翠香



《たぐひなき》 藤川翠香

「夏休み一日ART体験」

第19回『One day Art』

制作の体験だけじゃない、作家を、展覧会を体験できる『One day Art』。今年も子供たちの挑戦の夏が来ました。学校ではできないようなジャンルも、日展作家が丁寧に指導します。

(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。日展の芸術文化普及活動です。

主催

公益社団法人 日展

開催日程

7月21日(日)彫刻
7月27日(土)工芸美術(金工・七宝)
7月28日(日)洋画
8月3日(土)書
8月4日(日)日本画

※時間は各回で異なります。

☆作品展は、8月17日～21日
日展会館で開催します。

場所

日展会館
東京都台東区上野桜木2-4-1

参加者募集!

参加費(※教材費等)

1名 二、五〇〇円

指導作家・内容

※詳細はHPでご覧になれます

応募方法

★ハガキ、FAX、メールで、住所・氏名・電話番号・学年・希望日(必ず第2希望まで)を明記。

★子供が2名以上で参加希望の場合は、参加者全員の住所・氏名・電話番号・学年・希望日を記入

★保護者が実技参加を希望される場合は、参加の有無と氏名を必ず記入して下さい。

※締め切り7月11日(必着)
※見学の大人は人数に含まない

定員 各回 40名程度



(前回の様子)

賛助会員制度『日展パートナーズ』

(掲載希望者のみ 令和6年5月末現在)

●個人

青木晃子様	東 晋一郎様
新井演子様	飯田真未様
石崎國夫様	井谷善恵様
井上道守様	今田功一様
今村忠司様	岩田 薫様
内本久園様	奥田節子様
角井 博様	梶山純子様
兼重勇希様	菊池和久様
栗原直子様	呉 祐輔様
黒田浩平様	児玉安司様
小山信一様	近藤慎男様
坂本美賀子様	佐川かおる様
佐藤大悟様	澤井和行様
瀬川清楓様	高木和美様
高木寛史様	田頭明子様
田頭益美様	高橋千笑様
竹尾明子様	竹本葉子様
田中宏欣様	土屋礼央様
寺岡宏高様	中室里恵様
西田俊通様	西村潤帰様
西村友子様	野田裕一様
藤田理恵子様	藤本真之様
堀 稲子様	宮島幸男様
村里 暁様	森寫順子様
吉見次郎様	

●法人・団体

株式会社 IDホールディングス様	株式会社 大垣共立銀行様
株式会社 玉蘭堂様	謙慎書道会様
ゴールデン文具 株式会社様	公益社団法人 創玄書道会様
株式会社 タカラクリエイト様	株式会社 高山草月堂様
株式会社 千葉銀行様	株式会社 筑波銀行様
T&T パートナース法律事務所様	株式会社 帝国ホテル様
一般社団法人 東光会様	東洋額装 株式会社様
株式会社 西文明堂様	公益社団法人 日本書芸院様
ニューカラー写真印刷 株式会社様	株式会社 原汲古堂様
一般財団法人 ビオトピア財団様	福井素鳳堂様
有限会社 みなせ筆本舗様	一般財団法人 桃園学園様
株式会社 谷中田美術様	菱三印刷 株式会社様
株式会社 和光様	

能登は、やさしや 土までも（海までも）

（洋画）高崎 高嗣



元日に、令和六年能登半島地震が発災し、私の暮らす能登半島最西端の漁師町、志賀町西海地区も震度七の甚大な被害を受けました。同じ地区にお住まいで、長年、日展出品作のモデルをしていただいているMさんも、ご家族の生活も無事で何よりでした。我が家も、かなりの損傷が有りましたが、応急修理し、幸い生活出来るようになりました。

しかしながら、断水が長期化し日常生活は基より絵を描くのも水が大切だと痛感いたしました。二月中旬には、水道が回復し元気もいただき絵筆も進むようになりましたが、被害の大きさを考えると、絵を描いて良いものかと自問自答してしまいます。

ある日、避難所生活をされている方から、私の作品を見て「癒されました」と、お声掛けしていただき、少し心が楽になり、絵の持つ力を信じようと思いました。

そんな私を春の海は、今日も、やさしく見守ってくれています。

（石川県在住）

銀泥の里から

（工芸美術）石橋 美代子

銀泥（干潟）にシギ・チドリ等渡り鳥が羽を休めているのが見えます。肥前鹿島干潟のあるこの地は湿地保全等に関するラムサール条約登録地であり、また干潟の祭典「鹿島ガタリンピック」が催されるユニークな町です。私は東京からこの肥前鹿島に転居して十三年が経ちました。ここで七宝による平面作品を制作しています。

日展との出会いは「アートを目指したら」と助言をいただいたある作家の方の一言からでした。日展を薦めて下さり東京在住の頃は十一月の日展へ毎日のように足を運びました。そこでの作品・先生方との出会いは一生の宝であり制作の原点となりました。私にとって日展は学びの場であり「気」をいただく場であります。銀泥と太陽から着想を得て、自然がもたらす自然治癒力を表現できればと制作を続けております。願いは九州での巡回展が開催される事を切望してやみません。日展との出会いから三十年経ちましたが、この地から日展に感謝しつつ出品を重ねて参ります。

（佐賀県在住）



発する側の覚悟と真剣さ

（日本画）木村 友彦

日展出品は今年で五十回目となります。携帯もコンビニもない時代から、半世紀出品を続ける中で、日展は学校のようないろいろな作品や人との出会いがあり人生の一部となりました。

古い東京都美術館の床板のきしむ会場で作品と対峙し、体感した会場の暗さや冷たい空気感に包まれ、出品を続けようと腹をくくった瞬間でした。

自分と三つの約束をしました。一つ目はスケッチをする、スケッチブックが身の丈をこえました。二つ目は年間の制作が合計一〇〇〇号を十年間描き続ける。白い画面に向かってこの作品は完成できる、作品もそれを望んでいると言いきかせ描ききりました。

各地からの

制作への思い

(彫刻) 樽井美波

周りを山に囲まれた長野県で制作をしています。アトリエではいつも鳥や虫の鳴き声が聞こえ、穏やかな環境で制作ができることに感謝しています。

茨城県で過ごした大学時代、先生や先輩方の作品に憧れ、日展に出品させていただくようになりました。学生時代は、たくさんのお仲間や、様々な展覧会で観る作品から刺激を受け、背中を押してもらいながら制作をしてきましたが、地元で長野に戻り、仕事をしながらひとりで制作をする中で、思うように制作と向き合うことができずに悩むこともありました。そうした中、地元の彫塑研究会やデッサン会に参加するようになり、それぞれの生活の中で工夫しながら制作を続ける方々の姿から多くのことを学びました。

(長野県在住)



出品者の思い

ひたすら
只管筆耕

(書) 粟屋俊堂

大学一回生より、師にお導きをいただき早、四十五年。米芾の書に傾倒し、その味わいを出すべく、精進してまいりました。私は僧侶の身、無分別智(みんな違って、みんないい)を本分とすべきですが、作品が入選、入賞すれば嬉しい。これも煩惱でしょうか。そんな煩惱を抱えたまま、源平合戦の関門海峡を眼前に臨む寺で筆耕。書いて、書いて、書いております。

「文房四寶」の職人の方々に感謝し、その紙、その墨、その筆に恥じぬよう気の引き締まる思いで書作。振り返ってみますと、それは苦悩の連続でした。こんな表現でいいのだろうか、何度書いても満足するものが出来ず、締め切りに追われて止む無く出品したこともありました。それゆえ、作品が認められた時は感無量、次作への意欲が湧いたものです。全てのご縁をお陰様とし、今後も只管、書いて、書いて、書いてまいります。合掌

(山口県在住)



三つ目は心に秘めた思いを果たすために長良川をスケッチしながら、いかなる事も人生を深め、豊かにする景色として描いていこうと思に至りました。

(岐阜県在住)



作家人生—私の仕事—

或る日

第一科日本画 会員 岡村 倫行

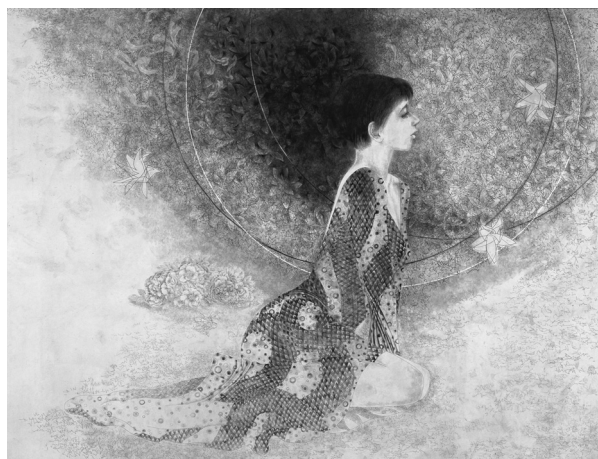
遥山人「パンと水の生活になりますが宜しいですか」
青年「はい」

遥山人「しかし辛い毎日が続きますがなあ」と青年の顔を覗き込み、その表情が固い決意のようだと遥山人は受け止め、青年の持ち込んだ写生や作品に手を伸ばしくもった声で「そうですか」と呟き写生に見入る。高校卒業間もない青年はその画家を眼の前にして何か苦虫を潰したような表情に不安を抱きつつ続く言葉を待つ。持てるだけの写生や作品をテーブルの上に積み上げたそれらを「沢山ですなあ」と楽しそうに遥山人の表情が次第に和らいで来るのが青年を安堵させる。

「そうですかこれは波切ですか大王崎の？」「はい後輩達と十日程写生に行った時のものです」「ほう、僕もよく行きましたなあ波切は面白いですからなあ、灯台を中心にいくんだ家々が石垣に囲まれて山の上にまで続いてねえ、写生の旅はよろしいで、歩く度に描きたい物があつて作品の着想がどんどん膨らむんですなあ」にこやかに熱の入った言葉が青年の気持ちも熱くしてゆく。

「勤めと制作の両立は難しいですからなあ、生活がついに……」遥山人は危惧するように問う「はい、大丈夫です」と強く応えた。帰途、玄関まで見送りに立つ遥山人に礼をして歩き出すが視線が長く感じられ足早になる。遥山人はこうも言っていた「月一度の研究会に出てこない人達も多いですなあ、画家を志す者にとってそれより大事な事が他に有るのかと思えますがなあ」

一等大切な物とは何か、その強い思いが言葉として吐き出されたと青年は身震いする。午後の日射しは強く開襟シャツが汗で背中張り付く『六月から研究会に出られる』その喜びが青年の強く踏み出す靴音と市電の車輪の音とが共鳴するように橋上に響いていた。



《紙花》(平成22年 第42回日展出品作)



《紀州》(令和4年 第67回青塔社展出品作)



池田遥邨先生と
天の橋立ホテルにて
昭和59年頃



三重県伊勢湾神島にて
平成8年





《新雪の麓》
(平成15年 第35回日展出品作) 特選



《雪湖畔》
(令和4年 第9回日展出品作)



《雪はれる》(令和5年 第10回日展出品作)



《アンダルシア薫風》
(令和5年 第110回記念光風会展出品作)



思い起こすこと

第二科洋画 理事 町 田 博文

生まれて初めての「画家」との遭遇は、中学校に入学した直後のことです。田舎の無知な少年の目の前に「画家」が突如として出現しました。

中学校からはそれぞれの教科の授業を、専門の教師が受け持つ教科担任制となり、美術を担当されたのが当時日展出品作家として「画家」の顔も併せ持つ先生でした。セザンヌやゴッホ、ピカソやマチスなどの生い立ちや作品について熱く語られる先生の専門的な絵画の授業に私の心は奪われ、美術の授業に夢中になりました。「デッサン」という言葉も初めて知り、美術の世界に大変な興味を持ちました。私にとって思春期に出会ったこの先生からの影響は計り知れないものがあり、その後の自分の人生を大きく決定付けるものとなりました。高校へ進み、明確に油絵作家の道を求めることになりましたが、美大進学という方法を選ばず、地元国立大学教育学部美術科へ進学しました。

大学では学友のほとんどが純粹に教員を目指していた中、作家志向の私の存在は特異なものであったと思われまふ。幸い、教官の一人で日展作家としても活躍中であつた西田亨先生に目をかけていただき、在学中は数ある教室の中の一室を占領し、制作三昧の日々を送りながら『人物で行く!!』と決めたのでした。大学三年の時、西田先生の紹介で寺島龍一先生の門を叩き、先生のアトリエに通つて指導を受け、その流れの中で私も自然と日展に出品することになりました。師である寺島先生からはデッサンの大切さを徹底的に学びますが、「君、デッサンは楽しいね。デッサンは面白いね。」が先生の口癖で、その言葉がこれまでの私自身の制作の根幹となって来ました。

作家として歩む道は、ある意味で混沌と困難が立ちまはだかります。今でも私の作家としての原点であり出発点となるこの鮮明な思い出は、それらを乗り越えようとする心の糧となっています。思い起こす度に感慨深く、感謝の気持ちが満ちて来るのです。

教えて、作家さん！
わくわくワークショップ
「手紙を書こう！」

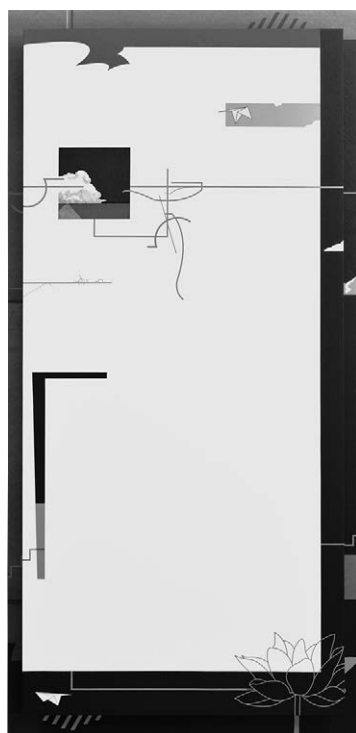
すごく単純に見えたけど、近くで見たら、何か物語を感じる深い作品と気づいて、とてもおもしろくなりました。色があるところと、白黒なところとあって、過去の時と今の時を描いているのかなあと私は思いました。紙ひこうきが2つとも別々の方向へと向かって飛んでいるのも、なんかいいなあって思いました。この作品にどのような思いをこめて描いたのかが気になります。そして、ところどころにあるナゾのぐにゅぐにゅのもようについても気になっています。それから最後に、この絵をかざるなら、どこだと思いますか？ちなみに私は玄関の正面にどこどかと飾ってみたいです。私はこの作品がとても気に入りました！これからもがんばってください。

晏和さん 15歳

私の作品はこれまで経験してきた時間を1枚の布に染めて表現したものです。モノトーンや黒で描いている所はおっしゃる通り過去を表しており、時間の流れや自身のその時の気持ち、紙飛行機も同じく飛んでいる場所やその向きも空間や思いを表現しています。質問にありましたぐにゅぐにゅの様子は音の表現です。今まで聞いてきた音楽や街中の騒音や環境音などを描いています。近年まで楽器をモチーフに音を表現していましたが、今は最小限の色や形、線などを使い描いております。

晏和さんは若くして色々な物事を捉える感性をお持ちかと存じます。「感性」は芸術だけではなく様々な分野においても役立つスキルですのでこれからの人生に大いに役立ってくれると思います。最後に、また私の作品とどこかで巡り合えることを祈っております。

工芸美術 金井大輔



時の風景

「わくわくワークショップ『手紙を書こう!』」という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集める企画を実施しました。4年目の今年も357通のお手紙をいただきました。

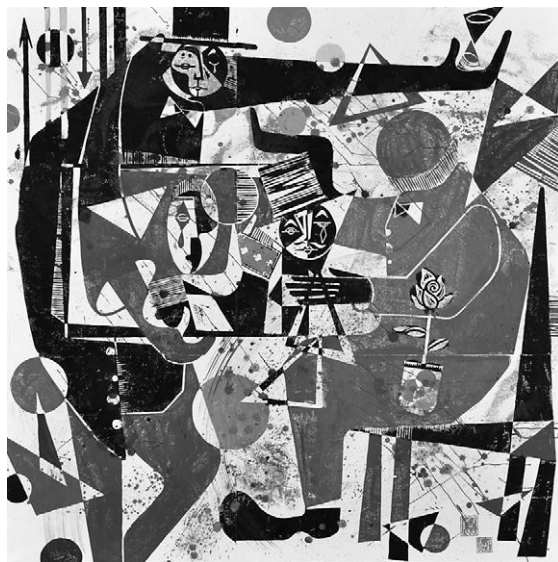
顔が泣いているように見えたり、こまっているように見えて面白いです。男の人が2人でたのしそうに話している感じがしました。

どうやって描いたのですか？どんな気持ちで描いたのですか？いつもどんな絵を描いているのですか？

響巴さん9歳

沢山ある作品の中から、私の作品に手紙を書いてくれてありがとう！とっても嬉しいです。私は油絵ではなく、木版画というジャンルで、小学校で習うと思います。木の板を彫刻刀で彫って、パレンという道具で大きな和紙に摺ります。墨を使います。いつも、頭の中で、作品の事を考えながら、テーマを決めます。世の中の問題とか、自然破壊とか、作品で訴える事が出来ないかなーと。今回の作品は、世界の困難な状況におかれている人達も、一生懸命に前向きに、笑顔で頑張っているけれど、心の中では泣いている、そんな思いをテーマにしてみました。私は、人物、動物、花、富士山と色々彫ります。また、来年もどんな作品が楽しみにいてくれると嬉しいです。

洋画 田中里奈



道化師



ばあばの野菜

かわいいからです。ワンピースがかわいい。自分に似ているよ。おばあちゃんちの家に行ったら野菜がたくさんあったから、本当に自分が作品になったみたい。うれしかったよ。

何でこういうのを作ろうと思ったのですか？

紗子さん7歳

初めまして。「自分が作品になったみたい。」と感想があり、とてもうれしかったです。この作品を作ろうと思ったのは、幼い頃の「ばあばと野菜の思い出」を形にしたいと思ったからです。その頃の私は、ばあばから見たらかわいい孫にみえていたと思います。えへへ(^o^)/ なので、かわいい女の子がばあばの野菜を大切に持っているイメージで作りました。かわいいなぁと思った時は、気持ちがとても明るくなりますよね。そんな思いを私の作品をみってくれる人にこれからも届けていきたいと思います。紗子さんのうれしい思いを届けてくれてありがとうございました。

彫刻 二塚佳永子

第10回日展巡回展

開催地	会 期	会 場	開 催 者	入場者数(人)
東 京	令和5年11月3日～11月26日	国 立 新 美 術 館	公益社団法人 日 展	88,503
京 都	12月23日～ 令和6年1月20日	京 都 市 京 セ ラ 美 術 館	日展京都展実行委員会	23,291
名古屋	1月24日～2月12日	愛知県美術館ギャラリー	中 部 日 展 会	30,037
神 戸	2月17日～3月24日	神戸ゆかりの美術館 神戸ファッション美術館	神戸市展社 公益社団法人 日展 神戸新聞社	38,927
金 沢	(中止) 6月1日～6月23日	石 川 県 立 美 術 館	北 國 新 聞 社	—

※金沢展は令和6年能登半島地震の影響に鑑み中止とさせていただきます。

叙 勲

令和六年四月

旭日中綬章

山本 眞輔 (日展顧問)

瑞宝重光章

河野 元昭 (日展理事)

瑞宝中綬章

吉賀 將夫 (日展理事)

アートシティ富士五湖プロジェクト
——日展の美——開催

会期 令和6年7月6日(土)
～9月29日(日)

会場 河口湖美術館



昨年、富士山の世界遺産登録十周年を機に、山梨県では富士山に関連したアートイベントの開催や芸術家の育成を通し、富士五湖地域のアートシティ実現を目指す「富士五湖自然首都圏フォーラム」を設立、その一環として、このたび山梨県・富士河口湖町・日展の三者連携のもと、日展作家の作品約百点を展覧する本展を開催する運びとなりました。

表紙

「流れに立つ」

一九九七年(平成九年)

第二十九回日展

170×55×55cm

雨宮敬子

(一九三一～二〇一九)

神宮美術館蔵

左の先生方が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

兼田 文男先生(工芸・画) 5・9・16

赤江 華城先生(書・画) 6・2・28

森田 彦七先生(書・画) 6・4・22

寺島 節朗先生(画・画) 6・5・23

磯野 清夫先生(工芸・画) 6・5・28

川崎 普照先生(彫刻・顧問) 6・5・31



(日本芸術院会員)
九十三歳。昭和六年
東京都生まれ。昭和
三十六年第四回日展
初入選。同四十四年日展会員、同
六十二年日展評議員、平成九年日
展監事、同十年日展理事、同十六
年日本芸術院会員、同十七年日展
常務理事、同十九年旭日中綬章受
章、同二十四年日展顧問。昭和四
十三年第十一回日展審査員(以降
合計九回)。

月岡 裕二先生(工芸・画) 6・6・3

編 集 後 記

月日が経つのはとても早く、今年も秋の日展出品作を考え、制作し始める季節となりました。
本号には今年の「第十一回日展」の会期などについてと共に「定時総会報告」、人事等について掲載しています。

「各地からの出品者の想い」では各寄稿者の心の吐露に触れ、「作家人生」では、何十年も経過している感動の出会いをお二人の作家が昨日の出来事のように語られ、人間関係、人との出会いの大切さを改めて深く考えさせられました。また、「ご挨拶申し上げます」のタイトルで新会員になられた方々の喜びの声を載せています。

十一月一日から始まる「第十一回日展」ですが、私も含め出品者が自分で納得のいく作品を制作、出品し、会場で対峙した自作を客観視し次の制作への足掛かりとなる場となる事を祈りつつ筆を置きたいと思います。
(亀山)

編集委員 亀山 祐介 西田 真人

浅見 文紀 前原 喜好

野原 昌代 堀内 秀雄

上原 利丸 村田 好謙

歳森 芳樹 福光 幽石